

令和7年度 学校関係者評価

実施 月： 令和8年3月

学校関係者委員： 医療施設関係者 2名

教育に関して知見を有する者 3名

学校職員 4名

1. 令和7年度教員による授業評価

2. 令和7年度学生による学校評価

1)教育理念・教育目標

教育理念および教育目標については、シラバスへの明示、入学時の説明、教室等への掲示を通して周知を図っている。学生の評価結果は、97%以上が「とてもそう思う、そう思う」と肯定的な評価をしており、教育理念・目標を理解し、学習の指針として認識している。

2)教育活動

今年度は大きな時間割変更がなく、学生が計画的に学習を進めやすい教育環境が維持されていた。『学生に合わせた授業内容や指導技術の工夫』については、全学生が「そう思う、とてもそう思う」と肯定的に評価しており、教育活動への満足度は高い。一方、『シラバスと授業内容の一致』については、5%の学生から「あまりそう思わない」と否定的な評価がみられた。講師の変更に伴い学習内容が変更し、その都度シラバスの修正は行っていたものの、学生への説明が十分でなかったことが要因の一つと考えられる。

実習に関する項目は、95%以上の学生が「そう思う、とてもそう思う」と肯定的に評価している。なお、アンケート実施時に1年生は実習未体験であったため、「わからない」と回答している。『実習評価の公平性・妥当性』については、2.7%の学生が「思わない、あまり思わない」と、一部否定的な評価も見られたが、中間評価を実施し、学生の自己評価と教員の評価の相違を共有しながら後半の課題を明確にしていることから、多くの学生は評価の公平性・妥当性を感じていると考えられる。

国家試験に向けた支援体制について、93%の学生が「そう思う、とてもそう思う」と肯定的に評価している。一方で、4.5%の学生(1,2年生)が「あまりそう思わない、わからない」と否定的・不明確とする回答があり、休暇中の課題や模擬試験と国家試験学習との関連性が十分に伝わっていなかった可能性が考えられる。

3)生活支援

進学・就職支援について、89%の学生、成績不審者の学習支援については87%の学生が「そう思う、とてもそう思う」と肯定的に評価しており、教員による支援が学生に伝わっていると考えられる。また、就学困難な学生の指導や奨学金に関する相談・支援についても90%以上の学生が「そう思う、とてもそう思う」と肯定的に評価しており、必要な学生に対して適切な支援が行われていると評価できる。

4)教育環境

校舎内の設備について、『自主的な学習の場が整備されている』の項目で95%の学生が「そう思う、とてもそう思う」と肯定的に評価している。学生ホールの机・椅子の入れ替えにより、雰囲気や利便性が向上し、学習環境の充実につながっていると考えられる。

3. 令和7年度教員による学校運営評価

1)教育理念

教育理念は概ね共有されているが、具体的な言語化および日常的な活用には至っていない。学生の多様化や学力の変化を踏まえ、卒業時到達目標の達成に向けた教育内容の工夫と組織的支援体制の強化が必要である。理念の浸透を図れるようキャッチフレーズ等を検討し、教員の主体的な学校運営への参画意識の向上に努めていく。

2)教育課程目標

教育目標は概ね達成されているが、学生間で卒業到達度に差がみられる。また、次期カリキュラム改正を見据え、教育課程の見直しが必要な時期に来ている。

3)教育課程経営

教育課程について、教員間で改善に向けた話し合いを行い、教育の質の向上に向けた方向性を共有する機会を持つことができた。また、臨地実習では、学生の積極性や実践力が高く評価されており、教育課程の成果として評価できる。

他の教育機関で既修得した科目単位認定について、学習内容の定着状況を踏まえた慎重な判断を行う必要がある。

教員研修の機会や教材研究のための支援体制は整えられているが、教員の人員不足等により、教育・研究活動を充実させるための環境整備には課題がある。今後は、教員の実習配置や研究活動の内容について検討していく。

4)教授・学習・評価過程

外部講師への依頼内容・シラバス・授業内容との内容確認の体制を強化していく必要がある。また、担当科目の急な変更により、科目間の関連性や整合性について十分な検討ができない状況もあった。一方で、一部の領域では話し合いの機会を設け、シラバスの見直しや授業形態の検討を進めることができた。

授業評価の結果について、教員間で共有され、各教員の振り返りや授業改善につながっている。

5)経営・管理過程

厳しい経営状況の中、入学者確保や退学者率低減、卒業生の県外流出防止に向けた取り組みが行われている。国家試験合格率100%を達成している点は評価できる。一方で、人件費や雇用形態の制約により、職員負担の軽減が求められている。

在校生や卒業生からの紹介による受験者も多く、学校の魅力が伝わっている。

6)入学

入試科目や必要な能力について、組織的な取り組みはしている。社会人の受験しやすさに配慮し、選抜方法の工夫を検討していく。

7)卒業・就業・進学

実習指導者会議やホームカミングデイ等を通して卒業生の状況把握を継続的に行っており、卒業後の動向把握は概ね適切に実施できている。

8)地域社会・国際交流

留学生や海外での看護職を志す学生は少ないものの、必要に応じて対応できる体制整備に努めている。また、外国籍の学生を受け入れたことは、今後の国際交流につながると評価できる。

4. 改善方策・取組等の検討ほか

【教育理念・目的・目標】

○ビジョンは組織運営の基本である。教員が納得しないと説明できない。概念図など作成し、わかりやすくすることも大切である。

【授業評価】

○学生の気づきから自ら主体的に学べるようにすることも大切だが、国家試験を受けることを考えると教員から必要な最低限の知識を提供することは必要である。バランスが大切である。

○外部講師の授業評価は各担当者へ返しているのか。

→外部講師は希望者のみ返している。忙しい中、講義に来てもらっている。

学生の辛辣な言葉が記載されている内容を渡すことに躊躇する。

→学生は、未熟であることを説明し、理解いただいた上で評価を返せばよいのではないかと

【経営】

- 教員の学校評価からは、少ない人数で頑張っている様子が伝わってくる。
- 教員は副校長を除き正規職員6名、実習指導のパート職員3名の9名体制であった。教員一人当たりの講義時間数は平均120時間を超えている。対人関係の改善がみられたため、協力し何とか成り立っている。人件費のベースアップがあり、経営は厳しい。
- 昨年度に続き研究活動の充実の評価が低い、研修は三重県の研修へ2回参加を必須としているが学会参加は、極めて少ない。
- 年に1～2日間学内全員でグループワークを含んだ研修を行ってはどうかとの意見をいただいたが、規模の小さな学校のため、実のある研修にすることは難しい。
- 各教員が参加した研修の伝達講習をすれば、より研修の効果が生まれる。

【教育課程経営】

- シラバスの内容から1単位の時間数が多いと感じる科目がある、次回のカリキュラム改正に向けてカリキュラム全体の見直しをし、時間数を検討したい。
- 今までは1単位30時間、15時間であったため、20時間の時間数はなじみがなく、時間割も組みにくくなるのではないか。

【学生確保】

- 定員40名で総学生数が125名いることは素晴らしい。愛知県の専門学校は、定員割れが多数ある。努力している。昨年度の看護師国家試験100%も素晴らしい。
- 社会人入試の特異性について、社会人は学力だけでは測れない素養がある
- これからは、学力がなくても入学後引き上げていくというマインドの変更が必要である
- 一定の学力は必要である
- 定員確保しなければ経営が成り立たない。病院でも同じであり、必要な職員数を確保する事を優先しなければならない場面は多々ある。
- 卒業生の家族(兄弟、子など)、卒業生・在校生の紹介からの入学が多いことはとても良い、評価すべき点である。
- 留学生の受け入れについて、今年度1名国家試験に合格し、卒業した。今後も需要はあると考えている。
- 外国籍の優秀な学生を多々見てきたが、ヤングケアラーの場合は、学力が低い傾向にある。
- 国家試験に合格するレベルまで引き上げることが1つの基準となる

【実習】

- 昨年度より1名の教員が専門以外の領域を含め、2領域を担当することにしたが、大きな問題はなく行えている。教員の国家試験対策に繋がっていると感じている。
- 実習施設の指導者の中には、否定的な指導により、教員、学生共に委縮してしまうことがある。
- 学生の心理的安全性を守るため実習病院に伝えることは必要である。実習病院への就職にもつながらないため、まずは看護部長へ伝えるべきである。